

第 62 回国立大学図書館協会総会 研究集会
平成 26 年度国立大学図書館協会海外派遣事業（短期）報告 サマリー

英国における電子情報資源管理のための Knowledge Base 共同構築の手法及び活用状況調査

電気通信大学
上野 友稔

1. 派遣概要

① 目的

- ・ KB+ (Knowledge Base Plus : 英国の大学等が、電子リソースのアクセス情報等を含むナレッジベースを共同構築するプロジェクト) の現状および将来展望
- ・ ナレッジベースを共同構築するメリットと図書館サービスへの利活用

② 日程 : 平成 26 年 9 月 22 日 (月) ~ 26 日 (金)

③ 視察先 : JISC Collections (JC)、The University of Huddersfield、King's College London

2. 報告概要

① ナレッジベースをめぐる課題

図書館が管理する電子リソース情報とアクセス可能な電子リソース情報の不一致により、利用者に対して電子リソースの適切なナビゲートができない。

② ナレッジベースを共同構築するメリット

KB+では、JC がナレッジベースの主要なデータを、各大学・機関が購読情報やライセンス情報を管理する中央集中方式で分業がなされており、各大学が行っていたデータ管理・メンテナンス作業の重複を解消した。

KB+のデータはディスカバリサービス、リンク・リゾルバなどに既に活用されているが、Web-API を用いてシステム間でデータをやりとりする機能の実装等が期待されている。

③ 視察の成果

電子リソースのナレッジベースは、NACSIS-CAT の図書・雑誌情報（紙媒体）を補完するものであり、今後電子ブックなどの普及が進むにつれ、その重要性が高まると考えられる。

また、NII の ERDB-JP プロジェクトで収集された日本のナレッジベース（紀要等の研究成果情報）を KB+等へ提供し海外へ流通させることにより、研究成果へのさらなるアクセス向上が期待される。